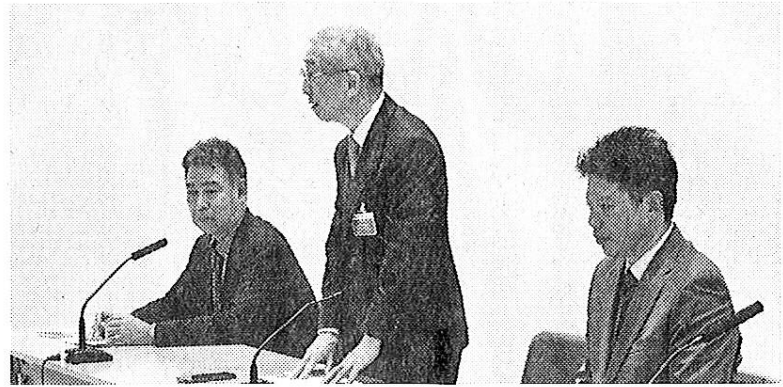


(一社)日本保育連盟  
「認定保育士資格」創設を  
専門性の向上と処遇改善訴え



資格創設の趣旨を説明する杉村代表  
理事＝9日、都庁第一本庁舎

保育士の専門性の向上  
や処遇改善に向け、現在  
の「保育士」資格の上位  
資格として「認定保育士  
資格」の創設を目指す  
(一社)日本保育連盟が  
9日、都庁第一本庁舎で

会見を開いた。元都福祉  
保健局長で同連盟の杉村  
栄一代表理事は「待機児  
童問題が解消に向かう  
中、保育現場における保  
育の質の確保と向上は喫  
緊の課題」と主張した。

保育所に通う子どもの  
中には障害があったり、

外国籍、ネグレクト家庭  
など、特別な支援を必要  
とするケースが見られる  
という。例えばADHD  
(注意欠如・多動性障害)  
の子どもは2009年に  
約4千人だったが、19年

には約6倍の2万4千人  
になるなど増加傾向にあ  
り、杉村理事は「現場の  
保育士に求められる専門  
性の幅も大きく広がって  
いる」と指摘した。

だが、保育の専門職と  
しての資格は現状、基本  
的な保育の知識やスキル  
を担保する保育士資格の  
みで、保育士の専門性の  
向上や待遇の改善、離職  
抑制に向け、上位資格と  
して「認定保育士資格」  
の創設を目指すとした。  
資格の取得には、10カ  
月～1年程度の研修カリ  
キュラムを想定。先行事  
例となる「認定看護師」制  
度を有する日本看護協会  
や有識者などと意見交換  
を行いながら制度を構築  
する。

杉村理事は「子どもた  
ちの健全な成長と発達を  
支援する保育士の専門性  
を深めるということを最  
大の使命として、その実  
現に向けて全力で努力す  
る」と話した。